

テーマ：みんな なかよし

学校教育目標
豊かな心を持ち、たくましく生きぬく子どもを育成する

道徳教育重点目標
進んで学ぶ子
命を大切にする子
手をつなぐ子

めざす1年生の子どもの姿
学校生活に慣れ、約束やきまりを守って
集団生活を送る
友だちとなかよく助け合う
よいと思ったことを進んで行う

道徳の時間の重点内容項目
1-(1)節度ある生活・2-(1)礼儀・2-(2)思いやり・親切・2-(3)友情・協力・4-(1)公德心・規則尊重

● 重点内容項目の指導構想

学期	教科・特別活動など	生活科	道徳の時間		常時活動
			ロングユニット	ショートユニット	
一学期	音楽 「てとてであいさつ」 図工 「えがおいっぱい」	がっこうとなかよし 友だちとあくしゅ 2年生と学校探検 自分たちで学校探検 先生とあくしゅ大作戦	2-(3) 2-(1) 2-(4)	きもちのいいいちにち 1-(1) 1-(1)	栽培活動（一人一人が咲かせよう・みんなで育てよう） ふれあいそらじ・ふれあいサーキット
		ひがしさいじょうとなかよし 通学路をたんけんしよう 東西条のおじいさん、おばあさんと なかよしになる会」を開こう 東西条のあきとなかよし 「あきとなかよしパーティー」を開こう	4-(2) 2-(2) 2-(1) 4-(4) 2-(3)	みんななかよし 2-(3) 2-(2) 1-(3)	
二学期	特別活動 「創立記念発表会」 国語 「学校のことを教えてあげよう」 図工 「こいしやはっぱのへんしん」	もうすぐ2ねんせい 家の仕事にチャレンジしよう 1年間を振り返ろう 次の1年生となかよしになろう 1年生を迎える準備をしよう	4-(2) 1-(2) 4-(3) 2-(4)	みんなのために 4-(1) 4-(1)	
三学期	図工 「ようこそ1年生」				

（太字が重点項目）

第1学年1組 道徳学習指導案

こころとこころをむすぼう～おじいさん・おばあさんとなかよし～

「となりのかつちゃん」【ロングユニット】 2 (1) 礼儀

出典『小一教育技術'03 12月号』小学館(一部改作)

本時のねらい

気持ちのよいあいさつは、心の中をさわやかにすることに気付き、人と明るく接しようとする態度を育てる。

VTRを活用する授業

指導者 東広島市立東西条小学校 黒川 以壽美

1 主題設定の理由

ねらいとする価値

気持ちのよい対応は、人間関係を築く上で最も大切な行為の一つである。なかでも、はきはきとした気持ちのよいあいさつは、人と人の心をつなぎ、お互いを和ませてくれる。人と人のふれ合いが希薄になっていると言われる現代社会だからこそ、低学年のうちからいつでも誰に対しても、心のこもった気持ちのよいあいさつができるようにしていきたいものである。

そのためには、あいさつが相手の心の中を明るくしてくれるとともに、自分の心の中も明るくしてくれるものだということに、具体的な場面を通して気付くことが大切である。また、あいさつによって互いが笑顔になれるだけでなく、あいさつをきっかけにして「なかよし」の輪が広がっていくということが実感できたとき、あいさつの苦手な児童も、「元氣よくあいさつをしてみよう」「もっともっとたくさんの人にあいさつをしてみよう」と、自ら価値を発展させることができる。

心に響く資料

本資料は、主人公である1年生のぼくが、3年生のかつちゃんを見習って、あいさつをすることのさわやかさを実感するという話である。

大きな声であいさつするかつちゃんにあこがれの気持ちを抱きつつ、なかなか実行できないぼくの姿を、児童は共感をもって受け止めることができると考える。また、小さな声のあいさつだったけれど、おばあさんに分かってもらった場面では、自分たちの体験的な学習を想起しつつ、あいさつによって心が通じ合えた喜びを感じとることができる。あいさつの大切さに気付き、あいさつを広げることにより、よりよい人間関係を築いていこうとする実践的な態度を育てていくのに適した資料であると考えられる。

価値の自覚を深める工夫

展開後段において、「おじいさん・おばあさんとなかよしになる会」のときのVTRを視聴し、あいさつの言葉を交わしながら、互いに笑顔いっぱいになれた様子を振り返っていきいたい。そのことによって資料を通じて深められた価値を自分のこととして捉えられると考える。

さらに終末においては、「おじいさん・おばあさんとなかよしになる会」で交流を持った地域のお年寄りにふるさとティーチャーとして話をさせていただくことにより、「これからも出会ったときには、気持ちのよいあいさつをしたいな」「もっとあいさつをして、なかよしを広げていきたいな」等、実践化へとつなげていけるようにしたい。

児童の実態

本学級の児童は、1学期には生活科の学習を中心として「学校となかよし」という体験的な学習を行い、クラスの友だちや2年生、さらに校内のたくさんの先生方と、その対象を広げながら、あいさつを交わしたり、自己紹介をしたり、握手をしたりといった活動を重ねてきた。これらの活動の中では、自分から積極的にあいさつの言葉を交わしながら、「なかよし」を広げようとしている姿も見られるようになってきていた。しかし、それは意図的に取り組んだ体験的な学習での姿であり、日常生活の中においては、依然として自分から積極的にあいさつの言葉をかけていくことが苦手である児童が多く見られ、あいさつの大切さを実感して実践しているとは言い難い実態にある。

今回の学習「おじいさん・おばあさんとなかよし」においては、地域のお年寄りに目を向け、その豊かな体験や知恵を学びながら、交流を深めてきた。核家族の中で育った児童がクラスの81%もあり、地域の高齢者とふれ合う経験にも乏しい傾向にあったが、今回の交流を通して、温かく自分たちに接してくれたおじいさん・おばあさんとこれからももっと「なかよし」でいたいという思いをほとんどの児童が抱いている。そこで、本時の道徳の学習において、気持ちのよいあいさつが、自分と周囲とのよりよい人間関係を築いていくことの大切さに気付き、あいさつを通してさらに「なかよし」を広げていこうとすることができると考える。

2 全体計画（全 18 時間 生活科 15 時間 道徳 3 時間）

時期	児童の意識の流れ	道徳 「心のノート」の活用 ふるさとティーチャー	各教科・特別活動 総合的な学習の時間
九月、十月	<p>自分たちのおじいさん・おばあさんは、いつも優しく見守ってくれているよ。</p> <p>東西条にもすてきなおじいさん・おばあさんがいるね。</p> <p>どんなおじいさん・おばあさんがいるのか、さがしてみよう。</p> <p>東西条のおじいさん・おばあさんともなかよしになりたいね。</p> <p>「なかよしになる会」を開いて招待しよう。</p> <p>どうしたら、おじいさんおばあさんたちは喜んでくださるかな。</p> <p>おじいさん・おばあさんの気持ちになって考えてみよう。</p> <p>係を決めて、楽しい会になるように準備しよう。</p> <p>優しく を教えてもらってできるようになったよ。ありがとう。</p> <p>おじいさん・おばあさんの手は温かかったね。</p> <p>教えてもらったことを友達ちに知らせたいな。</p> <p>お家の人にも教えてあげたいな。</p> <p>また会えるといいな。</p> <p>これからもなかよしでいたいな。</p> <p>今度会ったら、笑顔であいさつをしたいな。</p>	<p>「ぼくにもたせて」(光文書院) 4 - (2) 家族愛 祖父母を敬愛し、感謝の心を持って自分のできることを進んでしようとする心情を育てる。</p>	<p>生活科「おじいさん・おばあさんとなかよし」 自分のおじいさん・おばあさんの素敵なところを紹介し合う。</p> <p>地域に住んでいるすてきなおじいさん・おばあさんをさがす。 「おじいさん・おばあさんとなかよしになる会」の計画を立てる。</p>
		<p>「おとしよりといっしょに」(光文書院) 2 - (2) 思いやり・親切 お年寄りに温かい心で接し、自分のできることをしようとする心情を育てる。 授業の導入で「心のノート」P34～37を読み、お年寄りにどんなことができるかを記入し話し合うことで、資料への導入を図る。</p>	<p>「おじいさん・おばあさんとなかよしになる会」の準備をする。</p> <p>「おじいさん・おばあさんとなかよしになる会」を開く。</p>
		<p>「となりのかっちゃん」(小一教育技術) 2 - (1) 礼儀【本時】 気持ちのよいあいさつは、心の中をさわやかにすることに気づき、人と明るく接しようとする態度を育てる。 「心のノート」P31～32を授業の終末で読み、「心のリボン」であるあいさつを結んでいくことができるよう 実践への意欲付けを図る。 終末で、ふるさとティーチャーにあいさつに対する思いを語っていただく。</p>	<p>なかよしになったおじいさん・おばあさんのことを紹介し合う。</p> <p>おじいさん・おばあさんのことをマップにまとめる。 お礼の手紙やプレゼントを作る。</p>

となりの かっちゃん

「いってきますー!」

ぼくが、まいあさ学校へ出かけようとしていると、となりのいえから大きな声がきこえてきます。となりにすんでいる三年生のかっちゃんの声です。ぼくは、あんなに大きな声であいさつができません。けれど、かっちゃんの声につられて、小さい声ですが、「いってきますー!」

と言って、学校に出かけます。

「先生、おはようございます。」

学校でも、かっちゃんの大きな声がひびきます。

「かつひこくんの声で、あさから学校が、明るくなりますね。」
と先生にほめられていました。

いえにかえってから、かっちゃんといっしょに、「こつえんであそんでいると、ちかくにすんでいる、山口さんちのおばあちゃんが、はたけのしごとからかえってきました。気がついたかっちゃんは、大きな声で、

「おばあちゃん、こんにちは。」

あいさつをしながら、はしっていきました。おばあちゃんは、

「かっちゃん、こんにちは。きょうもげんきいっぱいだね。かっち

ゃんの声を聞くと、おばあちゃんも元気が出るよ。」

かっちゃんとおばあちゃんがあいさつをいっしょに
心が通い合っている様子を強調するため、改作。

とほめてくれました。ぼくも、あいさつをいっしょに思ったけれど、だまったまま何も言えませんでした。けれど、**おばあちゃんかひこくんばをかけてもらって**にっこりしているかっちゃんを見て、「**思いきって**言ってみよう」という気もちになりました。

「おばあちゃん、こんにちは。」

いつもの小さな声で言いました。

いつもの小さい声しか出なかったけれど、おばあちゃんのかおをいっかりと見て、言いました。

「あら、けんちゃん。こんにちは。けんちゃんも、かっちゃんのように、おばあちゃんにあいさつができたね。」

と言ってくれました。小さい声でしか言えなかったけれど、おばあちゃんにあいさつがわかってもらえて、ほっとしました。そして、**ときは、**もう少し大きな声で言えそうな気がしました。

おばあちゃんは、はたけでとれた、おいもを一本ずつくれました。

ぼくはかっちゃんとそろって、

「おばあちゃん、どうもありがとうー!」

とおもわず、大きな声を出している自分にびっくりしました。おばあちゃんは、

「どういたしまして。」

と言って、にっこりしてくれました。

かっちゃんの姿を見て、少しづつ気持ちよくなる
あいさつをいっしょにしたことを強調するため、改作。